

人権保育専門講座 8（連続講座）－①

テーマ『部落差別と家庭支援を考える』 常磐会短期大学 教授 卜田 真一郎さん



今年度も、専門性を高める研修会として家庭支援推進保育士の方を中心とした連続講座を人権 保育専門講座に位置づけ、開催しています。

この連続講座は、各回で取りあげるテーマについて、3つのステップを踏みながら、段階的に学びを深める形ですすめていきます。

ステップ1 各現場で抱えている課題を『共有』する。

ステップ2 お互いの取組を『交流』する。

ステップ3 人権保育推進のため、誰に対して、何を、どのように『発信』するのかを考える。

連続講座第1回目となる今回は、「部落差別と家庭支援を考える」をテーマに、部落問題と家庭支援にかかわる保育現場での課題と実践を共有し、今後の取組をどのようにすすめるかをグループに分かれて話し合いました。

ゲストスピーカーとして、常磐会短期大学兼任講師の杉本節子さんをお招きし、「多くの人権問題の中の『部落』問題からの提案～豊かな人と人のつながりを作る保育～」と題してお話いただきました。



ト田さんのお話より

1. 部落問題と家庭支援について

「部落問題と家庭支援」は、同和保育運動が起こり始めたときから、ずっと重要なテーマでした。保育士は、同和地区の保護者とともに同和保育の取組をつくるなかで、「家庭をどう支援するのか？」「家庭とどのようなパートナーシップをつくっていくのか？」を問われてきました。この問いに答えるものとして「24時間の生活の組織化」をめざし、子どもが保育所で過ごす時間と家庭で過ごす時間のつながりを意識しながら、子どもたちの生活全体を保護者・地域とともに

に考えてきました。



子どもは社会的な存在ですから、社会にある矛盾の影響をダイレクトに受けます。学力に課題がみられる子どもの背景には、家庭のおかれている状況や貧困の問題があります。社会的に不利な状況におかれている子どもたちは、学習や発達の間でも不利な状況におかれやすいということです。保護者の心がけの問題ではなく、家庭のおかれている状況が子どもに影響しているのです。そして、家庭のおかれている状況の背景には、社会構造上の問題があります。このように考えていくと、保育の現場と家庭がどのように連携しながら子どもたちに不利な状況をはね返す力をつけていくのが重要になってきます。現在の保育における様々な課題を克服するためには、今こそ同和保育が培ってきた家庭支援のあり方に学ぶ必要があると考えます。

2.杉本節子さんのお話から

テーマ 多くの人権問題の中の「部落」問題からの提案

～豊かな人と人のつながりを作る保育～

(1)《保育者は、日常的に多くの人権問題に向き合っている》

思い起こしてみると、私は家庭支援推進保育士を担当したことはありません。でも、クラス担任、主任、所長など、いつどんな立場であっても「家庭支援」を意識してきました。

クラスのなかには、様々な人権問題を抱えている保護者がいます。抱えているというより、向き合っていると言った方がいいかも知れません。常磐会短期大学で担当している授業で、「子どもの尊厳」について取り上げていますが、その授業のなかで、学生一人ずつに「日本の社会にある人権問題を書いてください」と投げかけると、一つのクラスだけで10個以上が出されます。

- ・子どもの人権
- ・女性(男性)の問題
- ・性的少数者の問題
- ・障がい問題
- ・部落問題
- ・外国籍の問題
- ・高齢者の問題
- ・家庭内における抑圧
- ・DV(加害・被害・傍観)
- ・いじめ
- ・経済格差による雇用の問題
- ・貧困
- ・パワーハラスメント
- ・セクシャルハラスメント
- ・病気に対する偏見
- ・シングル家庭に対して
- ・家族の多様な形に対して など

次に、出された人権問題について「子どもにかかわる問題はどれですか?〇をつけてください」と問いかけると、まずは「虐待」「いじめ」などに〇がつきますが、しばらく待つと、すべての人権問題に〇がついていきます。「えーっ。全部?パワハラと子どもとどう関係があるの?」「セクハラと子どもとどう関係があるの?」という意見も出されますが、「お母さんのおなかのなかにいるときに、そんなことがあると傷つくよな」といったつぶやきも聞こえてきます。

クラスのなかにある人権問題は、一つではありません。私は、部落差別に苦しむ保護者に出会ってきました。同じクラスには、子どもが障がいをもって生まれたことに悩む保護者もいました。人権問題に「重い・軽い」はありません。どの問題も、当事者の人たちにとって本当にしんどいものです。人権問題は、当事者とされる家庭の子どもたちだけでなく、差別する側にある家庭の子どもたちの姿にも影響を与えます。



- ☆子どもや保護者が(保育者も)、自分や他者に対する見方のなかに、偏見、誤解、思い込み、マイナスイメージが往々にして起こってしまっている現状がある
- ☆人権侵害は人々を傷つけ、生きづらさにつながる

(2)《子どもや保護者(保育者)の人権を尊重するすじみちをどう見通すか》

◎保育者として、現状の整理が必要(人権の視点で心を傾ける)

「あの保護者しんどいな」「あの保護者やりにくいわ」ではなく、「あのお母さんどうしてあんな姿見せるんやろ?」「きっと何かあるんちゃうかな?明日話してみよう」と考えるのが「人権の視点で心を傾ける」ことです。保護者や子どもの姿を否定的にとらえるのではなく、「少しでも知ろう」「わかろう」とする姿勢をもつことが大切です。

◎子どもや保護者の生きづらさに着目(保育者の生きづらさも内面に)

私は、保護者や子どもの仲間づくりをすすめつつ、絶えず自分の内面をみつめてきました。保護者や子どもと一緒に一喜一憂しながら、学ぶことができたと思っています。

【ある事例から①】

(子どもの姿・2歳児)	(保護者の姿)
<ul style="list-style-type: none">• 毎日、大きな声で他児に怒鳴る。• 時には手がでる。(たたく)• たえずイライラした感じがある。• ぼくの気持ち誰もわかってくれないという不安や不満を感じた。• 家庭訪問でお利口さんをたえず要求される。	<ul style="list-style-type: none">• 差別されないように子育てをがんばる。• 衣類の整理や、月1回のお弁当づくりなどばっちりこなす。• 他の保護者からの見られ方に緊張している。



親の子どもへの願いが、子どものストレスになっていた

【ある事例から②】

(子どもの姿・0歳児)

- 入所から5～6ヶ月たっても保育士に慣れず、不安そうに泣いて過ごす。
- 主にかかわる担任を求めて不安そうに泣く。
- 保護者が迎えに来ると、安心してホッとした表情を見せる。
- 人との愛着関係で何かあるのかと両親と懇談をもつ。

(保護者の姿)

- 両親ともに、子どものことはかわいがっている。
- 送迎のときによく泣いているので、保育所での様子を心配している。
- 保育所での不安な様子が続いていることを気にかけているが、どうしたらいいのかと家でも大事に対応している。
- 懇談で子どもの様子を話しはじめてから、結婚時に差別をうけてとても傷ついていること、今も引きずっていること、子どもの誕生で別の意味でしんどさがあることなどを話して下さる。



保護者のなかで部落問題が整理されないことが子育ての不安につながっていた

子どもの現象面だけみても、背景に部落差別があることには気づきません。しかし、保護者と話しこむなかで、保護者の子育ての背景に部落問題があることがみえてきます。部落差別に起因する保護者の不安や悩みをつかむことをスタートに、子どもの願いと保護者の思いのズレをなくす取組を、保護者とともに考えていく必要があります。

(3) 《子どもの仲間づくりの取組、保護者の仲間づくりの取組を見通す》 ～豊かな人と人のつながりをつくっていく～



私は、保育にかかわるお話をするとき、必ず1年間を見通したお話を入れさせてもらいます。それは、目の前の子どもや保護者の姿だけに一喜一憂するのではなく、取組を1年間のスパンでみながら、常に「今どの時点の取組をしているのか」を意識してもらいたいからです。

【保護者の仲間づくりの取組展開例】

1期(4月～6月) 保護者と仲良くなる段階(信頼関係をつくるスタート)

※とにかく保護者と仲良くなることを意識する。

- ・「担任はなんでも聞いてくれる」という安心感をもってもらうようにする。
- ・「子どもを肯定的(プラスイメージ)に見てくれる」「子どもの様子を伝えてくれる」「子どもの成長をよく知っている」と保護者が感じられるようにする。

活動 : 壁新聞(親子写真や子どもの作品など)
時期によって、子どもの成長が見える内容に変えていく。
: おたより発行、安心できる内容で
: 保護者によっては、丁寧な個別対応が必要である。
(送迎時の会話や家庭訪問を通じて、意識的に信頼関係を築いていく。)

2期(7月～9月) 保護者どうしがつながりはじめる段階

※園・所での取組で出会う

- ・子どものグループと同じ保護者グループで、子どもをとおして身近な存在になる。
- ・人権の視点でのつながり(人と人の信頼)があちこちで見え出す。

活動 : 参観日に親子ゲームなどを計画する。
: つながるきっかけとなる活動をする。(おもちゃ作り、人形作りなど)
: 簡単にできる壁しんぶん作りを、保護者を巻きこんで行う。(保護者どうしをつなげるねらいで行う。それぞれの保護者のユニークさが会話につながる)
: 小グループ懇談(子どものグループ)で、わが子の生まれたときの話を出し合う。
(保護者によっては、本音を話す機会になる。共感、応援の雰囲気を大事にする。夕方5:00～6:00限定で行う)

3期(10月～12月) 保護者の間に信頼できる仲間ができる段階

※共通の話題をとおして、信頼できる関係へ

- ・子どものことや悩みが出し合える場をつくる。

活動 : 運動会の応援隊をグループで企画(ポンポン?横断幕?など話し合う。)
: 運動会の親子対抗リレーで張り切る。
: 「わが子の成長アルバム」を作る。(写真、成長記録など)
: クラス懇談で、子どもたちが仲間のなかで育っている話を聞く。
(気になる姿も同時に聞き、他の保護者と一緒に考えていく)
: サイコロゲーム(サイコロの目が出た話題を話す)
①子どもの頃のうれしい思い出!
②子どもの頃のお父さんとの思い出!
③わが子の一番かわいい瞬間! など、話題を6つ準備する。

→「悩みが出せる!」「みんな一緒や!」「みんながんばっている!」

・・・共感・つながりを実感

4期(1月～3月) リーダーになれる保護者の登場

- ・「自分のことを知っている安心感」や「生きづらさを共有する関係」が保護者どうしの心を動かす。
- ・悩みを出し合えた信頼感がある。(人権尊重の文化が力を蓄える。)
- ・クラスの子どもたちの成長を喜び合う。
- ・参加できない保護者を気にかけ、話したいと行動する。
- ・子どもたちが参加する行事の応援を保護者で企画する。

(4)《子どもや保護者の仲間づくりの取組から学んだこと》

- ☆誰もが、何らかの人権問題にかかわっていること
- ☆個人の問題ではなく、社会の問題が個人を追いこんでいること
- ☆一人ひとりが抱えている問題は、聞いてくれる人の存在、支えてくれる人の存在があることで解決に向かうこと
- ☆信頼関係が実感できれば、発言するという勇気ももてたり、その見方や価値観がおかしいと意見が言えたりするということ(子育て力を蓄えることにつながる)
- ☆人権を尊重する(人がつながる)視点からものごとをみつめるようになるということ

3. 部落問題と家庭支援にかかわる課題を共有しよう

杉本さんのお話をうけて、参加者一人ひとりが感じている「部落問題と家庭支援にかかわる課題」をグループで出し合いました。グループごとで出された課題を整理し、その課題解決に向けて、園・所ではどのような実践がなされているのかを交流し合いました。



どのグループも、保育現場に表れている子どもや保護者の実態に深く迫る話し合いができていました。グループワークで出していただいた現状をみると、部落問題や保護者・家庭支援については、第2回以降でもさらに深めていきたいと思いました。

今見えている子どもたちの実態から、「高校進学するときどのような姿をみせるのか」「おとなになり社会に出たとき、どのように生きていくのか」までを見据えて、「今、保育のなかでやるべきこと」を家庭とともに考えていきましょう。



4. 部落問題と保護者支援にかかわる次の一步を考えよう！ ～未来への種まきワーク～

一人ひとりが「発信（次の一步）」としてやってみようと思うことを考え、人権保育推進のための『種』をまきました。具体的には一人ずつが付箋に自分のできることを書きました。全員で輪になり、その小さな『種』（できることを書いた付箋）を『畑』（模造紙）に貼って（種まき）いきました。



参加者のアンケートより

- ・杉本先生の話が、4つの段階で差別をなくすための取り組みの見通しをもつことがとてもわかりやすかったです。1や2で立ち止まりがちですが、最終目標を見据えて少しずつでも進んでいけるようにしたいと思えました。
- ・保護者が保護者とつながれるような場をつくっていくことが大切であり、その為にはまず保護者との信頼関係を築く必要があると改めて感じました。段階をふんで保護者どうしが関係をもてる場をつくっていく役目があると感じました。
- ・部落差別にかかわらず、子どもの姿の背景には親の問題やしんどさがあるのだということを強く意識できました。生まれた孫をかわいいと、なんの迷いもなく愛せるような社会にしていかなければならないと思いました。
- ・人権保育推進保育士、一年目で悩むことが日々ありますが、同じように思っている人がいることを知りました。ピンクのふせんで書かれたもののなかには、自分でも実践可能と思えるものがあつたので、自園に持ちかえり、一步ふみだしてみたいと思います！
- ・まだ自分の解放につなげていく、語るところに気持ちの躊躇があると思っています。講座をとおして他園職員との交流や、講師さんのお言葉で一步ずつでも前へ進んでいこうと思いました。杉本先生の“期ごとの目標”がとても参考になりました。